

神様の前に一日献身的に歩んだということは、天から見れば千年献身したのと同じなのです。ゆえに聖書には「一日は千年のようであり、千年は一日のようである」と書かれています。

ですから、私たちがこのように天の前に汗と涙を流しながら苦労を重ねているということは、まさしく天国に行つてから天と共に永遠に生きることができるといふことなのです。親の心はすべて同じだと思いますが、一日献身的に歩んだとしても、千日献身したのと同じように見詰めてくださる天の心を忘れてはなりません。

今日私たちは、親から生まれて今まで、天の前に、お父



キム・ミョンデ 1941年1月19日、韓国・江原道三陟(サンチョク)市に生まれる。53歳。韓国統一神学校卒業。韓国朝鮮大学校行政大学院修了。米国のT.I.B.S.大学から1992年10月に名誉神学博士号、93年2月に名誉哲学博士号を受ける(T.I.B.S.=Technica Institute of Biblical Studies)。1959年9月、統一教会に入教。63年7月24日、祝福を受ける(124家庭)。公職として教会長、教域長、教区長など牧会者を30年間務める。また、国際勝共連合、南北統一運動国民連合の道会長も創立から来日まで務めた。現在、柳寛順烈士精神宣揚会共同会長および、在日韓日・日韓家庭会総会長。子女は6人で3男3女(上の3人の娘が3万組の時に2世祝福を受ける)。霊の子女は多数で63人が祝福家庭。表彰①1974年第2次7年路程大賞受賞②韓国統一教会協会会長表彰を12回受賞③68年、久保木修己会長より模範牧会者賞を受賞。

様の前に、言葉で言い表せないくらいに大きな世話になっています。このことは、時が過ぎていく前に献身することにより、受けた恵みを返さなければなりません。ご父母様が生きておられるこの時にです。

献身することのできる健康な時に、献身することのできる心情が生きている時に、献身することのできる経済的な条件がある時に、このうちの何かを通してみ旨に献身しましょう。献身する機会を失わないようにしましょう。

(この内容は、昨年一月二八日東京教会の聖日礼拝で語られたものです。文責・編集部)

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

特別寄稿

成約時代宣布の摂理的背景

この特別寄稿は、昨年李相軒先生が韓国での各種修練会で講義された内容であり、季刊統一思想(韓国版・一九九三年冬号)に掲載されたものを翻訳したものです。

(文責・編集部)

韓国・統一思想研究院院長

李相軒

真のご父母様は一九九三年一月一日を期して、成約時代の到来を宣布されました。成約時代の到来というのは、新旧約の約束を成す時になったという意味です。約束には約束をする者と、約束をされる者が必要ですが、ここで、約束するかたとは神様のことであり、約束される者とは全人類を代表したイスラエル民族のことをいいます。

1. 成約時代到来の意義

神様はイスラエル民族にイザヤ書とかダニエル書の記録

を通して約束されたのですが、それは、この地上に平和の君、すなわちメシヤを送られ新天地(地上天国)を建設するという内容でした。

そして実際にメシヤがイスラエルの国に、平和の君として来られました。しかし、当時のイスラエルの民がイエス様を不信し、排斥して十字架刑に処することによって、神様が誓われた地上天国を成就することができませんでした。そこで神様は、ヨハネの黙示録三章の記録をおして、再び同じ約束をされるようになったのです。その約束はやはり、新しい天と新しい地を成すということでした。その

約束が成就すれば、二度とこの地上に、涙とか痛ましいこ

ととか、苦痛なことはないということに約束されたのです。そのためメシヤが再臨されるようになるのです。そして、一九九三年からその約束が成就する段階に入るようになります。これがまさしく成約時代の到来であり、真のご父母様は一九九三年を成約時代元年として宣布されたのです。

2、成約時代は長子権復帰の完成

(1) 長子権の意義

次に、成約時代の宣布が成されるまでの摂理的背景を考えてみることにします。成約時代を宣布するためには、アダムが墮落し、アベルが責任を果たすことができなかつたことによって、サタンに奪われた長子権を復帰しなければなりません。長子権とは、父母が単独ですべてのことを構想し、決意して断行する権限、すなわち父母の主管権（父母権）を受け継ぐ権限のことをいいます。すなわち、父母権に対する長子の相続権のことをいいます。

父母の立場は、「長」の立場です。家庭、団体、国家等、

(2) 長子権復帰の摂理と母子協力の摂理

長子権とは、生得権 (birthright)、すなわち生まれる時から持つて生まれた権利をいいます。これは長子が、生まれる母親の胎中から父親の主管権を引き継ぐ権利、すなわち相続権を持つて生まれたことを意味します。したがって、長子権復帰は同時に血統転換（サタンの血統を神様の血統に転換）を意味します。それゆえ長子権を完全に取り戻さないとすれば、胎中に再び入ったのと同じ立場で取り戻さなければなりません。

すなわち、アベルがカインの長子権を復帰しようとすれば、アベル・カインが共に母親の胎中に入った立場で復帰しなければなりません。これが双胎児（双生児）を通しての長子権復帰、すなわち胎中復帰です。

それで長子権復帰には地上復帰と、胎中復帰があるので、ところで、創造されたアダムが持つていた長子権は、その根本が神様です。すなわち神様がアダムに長子権を与えたのです。したがって、第二のアダムとして来られるメシヤは、胎中で神様から長子権を受け継がなければなりません。

どこでも「長」があります。ところが墮落世界では、その「長」の背後に必ずサタンがいて、実質的な主管権を掌握しているのです。主管権を持った長（背後のサタン）は原則的に他人の干渉を拒否します。したがって、地上の長がいくら宗教的良心によって仕事を処理するとしても、背後のサタンはこれを自分の主管圏に対する干渉、または挑戦とみなして、これを妨害しようとするのです。すなわちサタンは、すべての家庭、氏族、民族、国家の背後にあつて、地上の長たちが善なることを成すことができないうように妨害しているのです。

ところでメシヤが平和の君として来られ、平和の世界、理想世界を実現しようとすれば、すべての長（地上）たちを感化させて、善を行うようにしむけなければならぬのです。そのようにするためには、メシヤは家庭、会社、団体、国家等の長の背後でその長たちを支配しているサタンから、その主管圏をすべて奪ってこなければなりません。そのためにはまず、地上でカイン側の人間が握っている主管権の前段階である長子権を、アベル側の人間が条件的に復帰しなければなりません。これを長子権の地上復帰とい

います。

せん。これが長子権の根本復帰です。それで、この長子権復帰には根本復帰、胎中復帰、地上復帰の三段階の順序があります。しかし実際の復帰は逆に地上復帰、胎中復帰、そして根本復帰の順で取り戻すようになるのです。

このように実際の長子権はまず地上で取り戻し、胎中で取り戻し、その次に根本的に取り戻すのです。このような基盤の上でメシヤが来られるのです。ところで、この三種類の復帰は全部条件的なものであつて、すべて胎中で成されるのです。地上復帰も胎中で条件的に復帰された土台の上で、後になって地上で長子権が復帰されるのです。（「地上復帰」であるからといって胎中と無関係なのではない、という意味である）

ところで、地上復帰、胎中復帰、根本復帰には必ず一定の蕩滅条件を立てた母（女性）、すなわち分立された母（女性）が必要なのです。その蕩滅条件というものは、第一に父子を欺くこと、第二に律法を無視することです。これはエバが墮落する時に父子（神様とアダム）を欺き、神様の戒めを無視し、サタン側へ超えていったものを反対方向へ復帰するための条件なのです。このような蕩滅条件を立てた母がまさしくリベカ、タマル、マリヤの三人でした。

リベカの場合は双生児を身ごもったのですが、胎中ではヤコブが長子権を持つという条件のみ備え、生後に兄（エサウ）をだまし、小豆がゆともち（日本語の聖書ではパンとレンズ豆のあつもの）で長子権を取り戻し、後にエサウを自然屈伏させたのです。タマルの場合は、胎中で弟のペレヅが兄であるゼラから長子権を実際に奪って生まれたので、文字どおりの胎中復帰です。

次に、根本復帰です。これはイエス様が、マリヤの胎中で神様から直接長子権を相続して生まれたことを意味します。このように長子権復帰には、地上復帰、胎中復帰、根本復帰の三段階があるのです。これを摂理的に各々家庭的段階の長子権復帰、民族的段階の長子権復帰、国家的段階の長子権復帰といえます。

ところで、マリヤの時は双生児による胎中復帰ではありません。それは、タマルの段階において長子権の胎中復帰が完了していたためであり、マリヤの段階においては、メシヤはただその復帰された長子権を、神様から直接相続したものと認定されるだけでよいのです。すなわちこの時イエス様は、神様から直接長子権を胎中で受け継いだ立場に立つようになるのです。これがまさしく根本復帰なの

です。

ところで長子権復帰には、その復帰された長子権を確実に保障する基盤が必要です。これが母子協力の基台であり、それによってアベルとカインが一つになって、その兄弟が再び母と一つになるのです。母子協力の造成も三段階の母子協力、すなわち家庭的段階、民族的段階、国家的段階の母子協力があります。

イエス様の時は、国家的段階の母子協力の摂理はマリヤ等の過ちにより失敗に終わったのです。この国家的段階の母子協力とは、イエス様の婚姻問題を中心として、マリヤとアベルの立場であるイエスとカインの立場である洗礼ヨハネが一体化することを意味するのです。この一体化が当時のパリサイ人、サドカイ人たちの不信の影響を受けて、成就できなかったのです。

このようにして国家的段階の母子協力が失敗に終わることによって、イエス様は十字架刑を受けざるをえなくなつたのです。もしこの時、母子協力が成されていれば、十字架の刑はありませんでした。また、イエス様とユダヤ教が一つになり、次いでイエス様とイスラエルが一つになって、イエス様のメシヤとしての使命は完成されたことでしょう。

3. 再臨時代と母子協力摂理

再臨の時にはイエス様が直接現れて、地上の一人の摂理的人物に、メシヤの使命を伝授されることにより再臨が成されます。これは同摂理的人物（再臨のメシヤ）に、根本復帰された長子権が相続されたことを意味するのです。また同時に、神様の血統が相続されたことを意味するのです。再臨の時は世界的時代です。イエス様の時は国家的時代であつたので、国家的段階の母子協力が成されなければならなかつたのですが、世界的時代には、世界的段階の母子協力の基台がつくられなければなりません。それが第二次大戦の時の英・米・仏の連合国形成なのです。

英国はエバ、米国はアベル、フランスはカインの立場でした。この三か国が第二次大戦の時、神様のみ旨になつた協調体制を成したために戦争に勝つたのです。こうしてここに世界的な母子協力の基台が成立したのです。今やこの世界的な基台の上で、英国（エバ）が韓国に来てメシヤを迎えなければならぬのです。ところで、このことが成されるには、イエス様の時に成されなかつた国家的段階の

母子協力が韓国で蕩滅復帰されなければなりません。そうならば、韓国で母子協力が成立した家庭が立てられて、その家庭と英国が一つになるようになっていたのです。

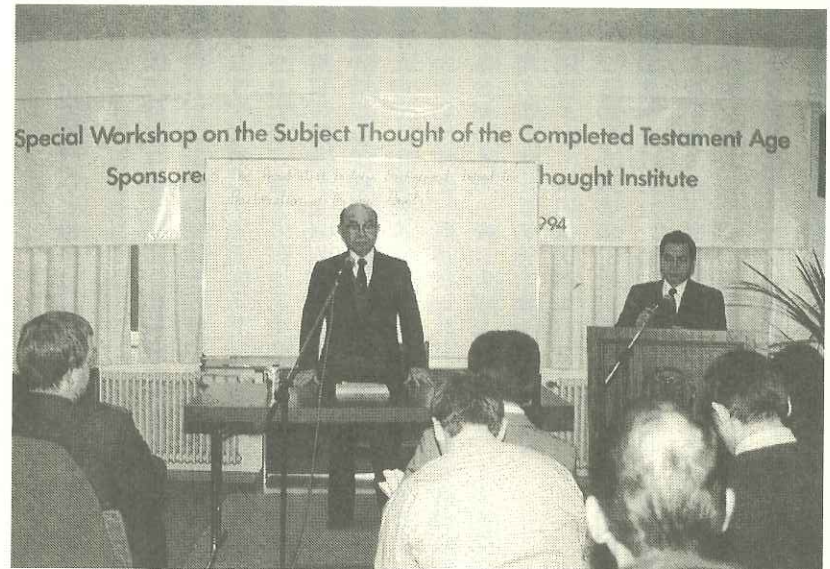
韓国に、そのような家庭的段階の母子協力の基台を立てるようになっていた家庭がありました。それは当時の神霊派の一家庭でした（当時の神霊派はメシヤの再臨に関して一致した信仰を持っていました）。ところがこの家庭が、母子協力の家庭になることができなかつたのです。こうして再臨の時の国家的段階の母子協力の摂理が再び失敗してしまつたのです。

解放前後の韓国のキリスト教は、アベル側である神社参拝反対派とカイン側の神社参拝賛成派に分かれていました。カインが、アベルの前に頭を下げなければならぬ原理に従って、神社参拝賛成派はその反対派の前に屈伏しなければなりませんでした。

そして解放直後、韓国に進駐していた米国は英国（エバ）を代表した立場だったので、神社参拝反対派と手を結ばなければならなかつたのです。このようになれば、いったん失敗した国家的段階の母子協力の摂理を蕩滅復帰することができたのです。ところが、そのようにならなかつたため

神様は全知全能なかたであられるにもかかわらず、人間の責任分担保不履行とサタンの讒訴ゆえに成す術もなく、失敗した神様にならざるをえない、切迫した状況になってしまったのです。このような状況から神様を救済するために、お父様は、「キリスト教が失敗したものを私が蕩滅復帰しますので、私に四〇〇年間に該当する四〇年を許諾してください」と懇願され、神様に許諾されたのです。神様がとても喜ばれるとともに、お父様の万古に輝ける忠孝心に神様は痛哭されたのです。この時からお父様の四〇年荒野路程が始まったのです。

それ以後のお父様が歩まれた道は険山峻嶺の道であり、血と汗と涙の道であったのです。四〇年の間に、四〇〇年間の摂理的人物たちがサタンから受けたすべての迫害をただ一人受けられながら、これに打ち勝たなければならなかったのです。文字どおり凄絶惨絶な四〇年路程だったのです。決して許すことのできない神様の怨讐であるサタンを許された神様のことを考えながら、涙でもって許してやらなければならなかった、恨の心情でいられるとられた痛哭の路程だったのです。ですから、説教をする時も涙を流され、



成約時代の主体思想に関する特別セミナーで講演する李相軒先生
(1994年1月16～19日、ドイツ・フランクフルトのシュミッテン修練所にて)

に、国家的段階の母子協力の基台が再造成されなかったのです。その後、もう一度機会があったのですが、腹中派（許孝彬等）の過ちにより、その機会までも失ってしまったのです。

このようになって蘇生、長成、完成の三段階の縦的な摂理が成されない時は、横的に一代の性格を持った三回（度の摂理（アブラハム、イサク、ヤコブの三代が一体を成した横的蕩滅条件摂理の成功がその例である）が許されるのです。しかし、その横的な蕩滅復帰摂理までもが失敗してしまつたのです。

キリスト教の不信が、その根本原因であることはいうまでもありません。このようにして、国家的母子協力の基台が立たなかつたために、世界的母子協力の基台は立たなかつたも同然な、無意味なものになってしまったのです。こうして今まで継続されてきた、アブラハムからの四〇〇年間の神様の摂理、すなわちユダヤ教、およびキリスト教中心の摂理が失敗に終わらざるをえない深刻な段階に至つたのです。

4. 四〇年荒野路程

祈祷する時も涙で痛哭されたのです。

5. 再臨メシヤの蕩滅復帰完成

四〇年間の蕩滅路程は、八段階の蕩滅路程すなわち個人、家庭、氏族、民族、国家、世界、宇宙の七段階（および、僕の僕、僕、養子、庶子、嫡子（実子）、新婦、父母の七段階）のサタンの迫害の段階と最後の神様の試験の段階としてなされ、このすべての迫害と試験を天涯孤独に克服されたのです。この四〇年期間は文字どおり獄中苦役のような期間でした。このような蕩滅路程をついに一九八五年に勝利で完結されたのです。

神様はこの勝利を祝賀されるためにその三年後の一九八八年、メシヤの国韓国の地でソウルオリンピックを開催させ、歴史始まって以来初めての人類大和合の体典を催されるようになされたのです。そしてその次の年の一九八九年八月三十一日、四〇〇年の八段階の蕩滅路程を見事に完結されたことを確定（判定）づける八定式を宣布なさつたのです。そして、その翌日（一九八九・九・一）には「天父主義」が宣布されたのです。

この時より、お父様が神様の代身となられたので、神様がお父様の体をご自分の体にされたのです。こうして「真の父」が顕現されたのです。そして、キリスト教が責任を果たさなかつたため、四〇年荒野路程の間にメシヤが洗礼ヨハネの立場に立ち、新たに女性を選び出して新婦を探し求めたのです。そのかたが今日のお母様であります。

ところで、ここに四〇年荒野路程以前の失敗した国家的母子協力の基台と、世界的母子協力の基台が再び立てられなければなりません。この時の世界的母子協力の基台は日本を中心とした米国、ドイツの連合として成されました。先に、第二次世界大戦の勝利で世界的母子協力の基台が立てられたのですが、国家的段階の母子協力が成されずに失敗した結果になったために、第三次大戦（共産主義と戦う思想戦）の時、再びエバ、アベル、カインの国を立てなければならなかったのです。

こうして再び立てたのが日本（エバ型国家）、米国（アベル型国家）、ドイツ（カイン型国家）です。そして、この三国を中心とした国際的勝共運動をもって共産主義に勝利したのです。この時、お父様の思想がなければ、世界は赤化されてしまったことでしょう。このようにして、世界

的母子協力の基台が立てられたのです。

6. 柳寛順精神宣揚会を通じた民族的母子協力学理

次に国家的母子協力の基台が造成されなければなりません。ところで、その母子協力の基台がついに造成されたのです。それが何かというと、霊的母（女性）である柳寛順を中心として、日本にある民団と朝総連が一つになったことです。この柳寛順は、エバ型の人物として三・一運動の時に独立万歳を叫んだのですが、惨殺されたのです。柳寛順は、大韓民国独立万歳を何の意味があつて、そのように命を懸けて叫んだのでしょうか？ それは、この地にメシヤが来られるからなのです。彼女の年齢はエバが墮落する時の一六歳と同じ年齢でした。

言い換えれば、エバの立場で柳寛順は民族の前に祭物になったのです。「罪人である私（エバ）が祭物になりますので、私のこの祭物的条件をご覧になられ、どうか第三アダムがエバの重罪を許してください、降臨してくださいますように」と言いながら死を覚悟して万歳を叫んだと見るのが撰理的見解です。

ところで、お父様が柳寛順精神宣揚大会を開催することを願われたことは、天が三・一運動の時にその蕩滅条件を受け入れられ、彼女を悔い改めたエバ（母（女性））として認定されたことを意味します。柳寛順精神宣揚大会の時に朝総連と民団の会員たちが一緒に参席して、彼女の愛国精神に涙をもって感銘を受けたことは、エバを中心としてカインとアベルが一つに和合したこと、すなわち母子協力が成立したことを意味するのです。

そして、エバ国家である日本の統一教会がこれに積極的に協助したということは、撰理的に見る時、日本教会が、霊的母（柳寛順）が実体化した実体の母（女性）の立場になつて、カインとアベルを一体化させたことを意味するのです。このようにして、国家的段階の母子協力の基台がついに造成されたのです。この時の日本は、撰理的には異国としての日本ではなく、韓国と一つになった同一国の立場であつたのです。

その次に、国家的母子協力の基台と世界的母子協力の基台が一つになって新婦を迎えなければなりません。世界的母子協力の基台は、日本を中心とした米国と西ドイツであるので、ここでエバ格である日本が日本教会と一緒になつて

メシヤを迎えなければなりません。それで一九九二年三月に日本がお父様の入国を許し、日本教会と共にご父母様を歓迎したのです。

その時のみ言は、お父様が語られたのではなく、お母様が語られました。お父様は原理講師のような立場で、原理に関するみ言だけ話され、挨拶のみ言はお母様が話されたのです。ところでお母様は簡単でありながらも、歴史的なみ言を語られました。その要点は、「皆さんにこの場でお会いできてうれしい」ということと、「来月四月一〇日に予定される世界平和女性連合創立大会で、私が講演いたしますので、その席にぜひ参席してください」ということでした。

このみ言がどうして歴史的なみ言であるのかといえ、お母様が母子協力の基台を完成したエバの出迎えを受けたその立場は、聖霊が初めて公式的にみ言を語られる立場であつたからです。すなわち、聖霊が公式的に新婦になられるお母様を通してみ言を語られるのです。重ねて言えば、聖霊がお母様の体を自分の実体とし始めたということなのです。

7. 実体聖霊の出現と女性時代の宣言

その後、お母様が予定どおり一九九二年四月一〇日、ソウルオリンピック・メインスタジアムに一五万名が集まった中で、女性時代の開幕、すなわち女性解放を宣布すると同時に、今日の世界的な大混乱の中で人類の進むべき進路を明示され、特に女性の使命に対して訓示を下されたのです。その内容はすべてお父様の真理の教えでした。

こうして黙示録の聖句(二二・一七)、すなわち「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」という聖句が成就されたのです。これは聖霊がお母様の体を用いられて実体聖霊になり、ついに地上に出現なさったことを意味するのです。

8. 真の父母の顕現と成約時代の始まり

こうして国家的段階の母子協助と、世界的段階の母子協助を成した基盤の上に、真の父、真の母が顕現なさったこ

とにより、母子協助の基台造成によって代表された全人類のすべての家庭は、顕現された真の父と真の母の祝福を受けて重生することができるようになったのです。その初めての祝福がまさしく全人類を代表した三万双の祝福だったのです。この三万双の中には、五色人種がすべて包含されていたのです。彼らが一緒に祝福を受けて、重生されたのです。

このようにして「人類の真の父母」が現れ、同時に、その尊称が満天下に宣布されたのです。数知れぬ汗と、涙と、血を流しながら、数多くの先知、先烈が犠牲の祭物としてささげられながら陰山峻嶺を越えて、あらゆる苦難を克服された基盤の上で、人類の真の父母が顕現なさったのであり、そしてすぐに引き続いて一九九三年の年初めに成約時代の開幕が宣布されたのです。

それは真のご父母様こそ、「新天新地を建設するといった新旧約の約束」を成されるようになって「平和の君」(イザヤ九・六)であられるからなのです。すなわち、真の父母の顕現によって、新旧約の聖書の「約束が成就」される成約時代が開幕されるようになるのです。

氏族メシヤの意義 (最終回)

周藤健

第六章 氏族的メシヤと私たちの使命

(五) 私たちの三権復帰

一、長子権復帰

アベルの使命

そのために神様はご自分では直接できないので、自分の代理使命者を生み出すわけです。これがアベルです。そし

て、天使長のほうが代理者として立てるのがカインなのです。神様はカインに対して直接には相対できませんから、カインに愛を与えて、その背後の天使長の恨みを解いてあげるということもできないのです。

したがってたった一つ残された道は、神様はアベルとは相対できる原理的根拠がありますから、アベルに対して愛を降り注がるわけです。神様がアベルを愛するのは、アベル自体に愛を注ぐのが目的ではなくて、アベルを通じて愛がカインに届くように、愛を言いつけたいからです。そして、その愛でカインを完全に解かすことによって、その背